

「物流の2024年問題」に係るアンケート調査の概要

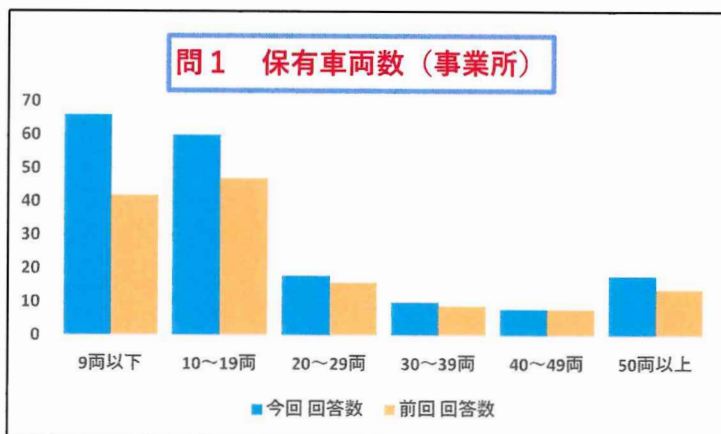
《一般社団法人 宮崎県トラック協会》

- (1) 調査対象 (回答数) 運送事業者 182社 ※《3月1日現在》
- (2) 調査期間 令和6年1月25日 ~ 令和6年2月14日
- (3) 調査方法 調査票による無記名回答
- (4) 前回調査 令和5年7月

《集計結果》

(1) 保有車両数について

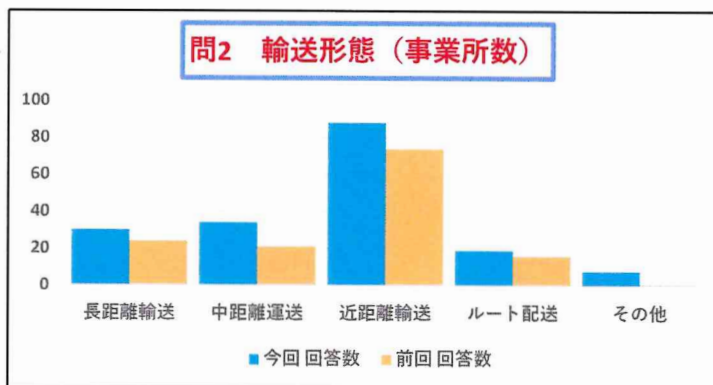
	今回		前回	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
9両以下	66	36.7%	42	30.9%
10~19両	60	33.3%	47	34.6%
20~29両	18	10.0%	16	11.8%
30~39両	10	5.6%	9	6.6%
40~49両	8	4.4%	8	5.9%
50両以上	18	10.0%	14	10.3%
	180		136	



- ◎ 前回の調査より44社 (136社→180社) の増加。
- ◎ 特に9両以下が24社増。10~19両が13社増の回答で、車輛規模の小さい事業者の回答が多く、全体の7割を占めた。

(2) 輸送形態について

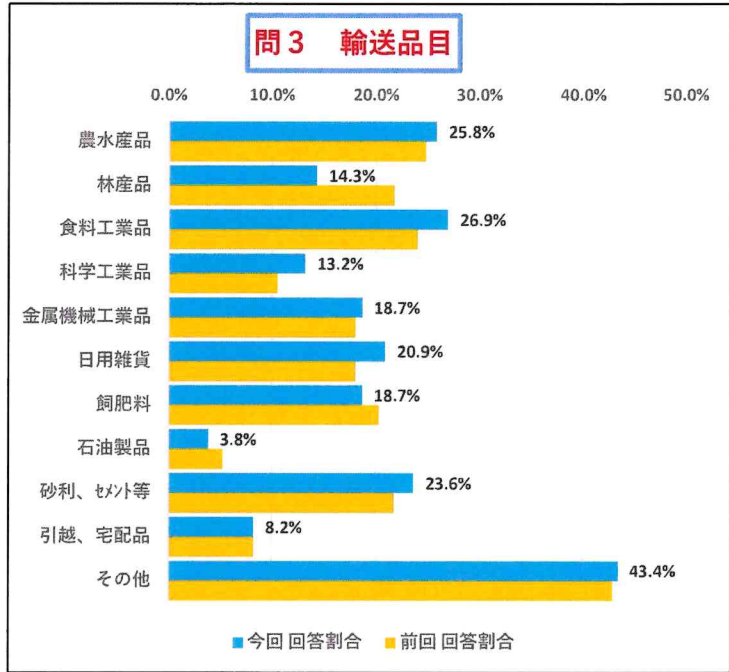
	今回		前回	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
長距離輸送	30	16.8%	24	17.6%
中距離運送	34	19.0%	21	15.4%
近距離輸送	88	49.2%	74	54.4%
ルート配送	19	10.6%	16	11.8%
その他	8	4.5%	1	0.7%
有効回答数	179		136	



- ◎ 中距離輸送が13社の増、近距離輸送が14社の増で、両者で68.2%を占めた。

(3) 輸送品目について《複数回答可》

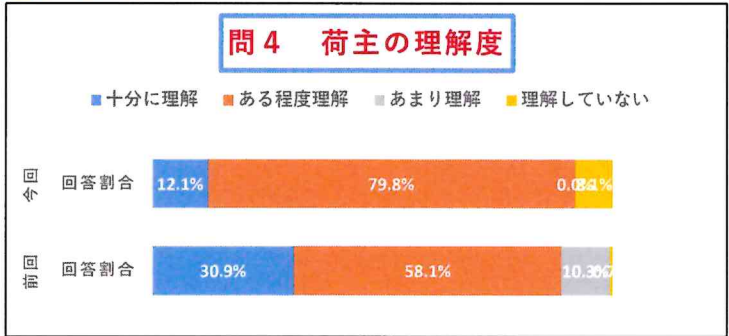
	今回		前回	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
農水産品	47	25.8%	33	24.8%
林産品	26	14.3%	29	21.8%
食料工業品	49	26.9%	32	24.1%
科学工業品	24	13.2%	14	10.5%
金属機械工業品	34	18.7%	24	18.0%
日用雑貨	38	20.9%	24	18.0%
飼肥料	34	18.7%	27	20.3%
石油製品	7	3.8%	7	5.3%
砂利、セメント等	43	23.6%	29	21.8%
引越、宅配品	15	8.2%	11	8.3%
その他	79	43.4%	57	42.9%
有効回答数	182		133	



◎ 輸送品目のその他を1品目とカウントすると、各事業者約2.18品目程度（延べ396／182事業所）を配送していることが推測される。

(4) 「物流の2024年問題」への荷主の認識・理解度について

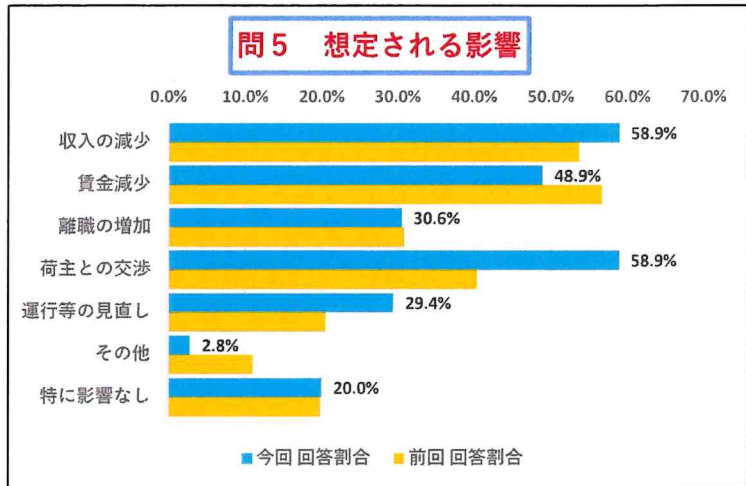
	今回		前回	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
十分に理解	21	12.1%	42	30.9%
ある程度理解	138	79.8%	79	58.1%
あまり理解	0	0.0%	14	10.3%
理解していない	14	8.1%	1	0.7%
有効回答数	173		136	



◎ 前回の調査以降、国の政策パッケージの公表や荷主対策等の方向性が明らかとなり、運送事業者の2024年問題に対する意識・荷主へ求める水準も高まったことから、荷主の理解について「十分に理解」の判断から「ある程度理解の理解」に大きく転換したものと推測される。

(5) 「物流の2024年問題」で想定される影響について《複数回答可》

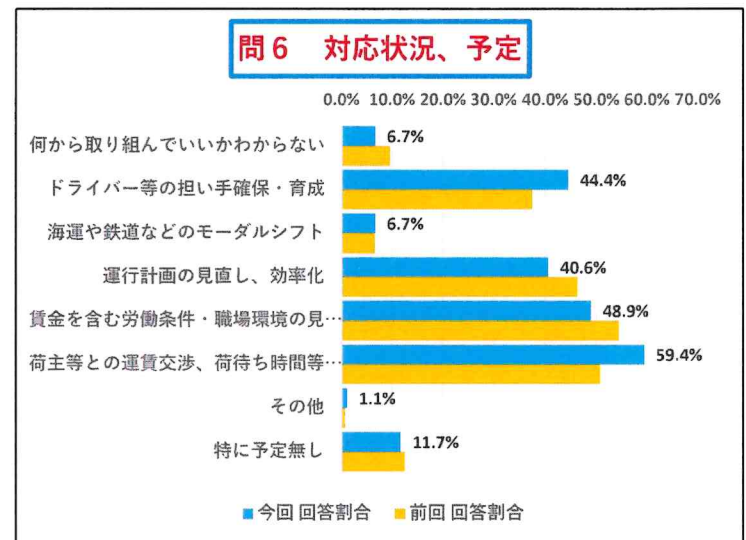
	今回		前回	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
収入の減少	106	58.9%	73	53.7%
賃金減少	88	48.9%	77	56.6%
離職の増加	55	30.6%	42	30.9%
荷主との交渉	106	58.9%	55	40.4%
運行等の見直し	53	29.4%	28	20.6%
その他	5	2.8%	15	11.0%
特に影響なし	36	20.0%	27	19.9%
有効回答数	180		136	



- ◎ 想定される影響について、「収入の減少」や「荷主との交渉」、「運行の見直し」の割合が増加したのが特徴。
- ◎ ドライバーの時間外労働規制や運転・拘束時間等の削減が大きく影響しているものと推測される。

(6) 「物流の2024年問題」への対応状況、予定について《複数回答可》

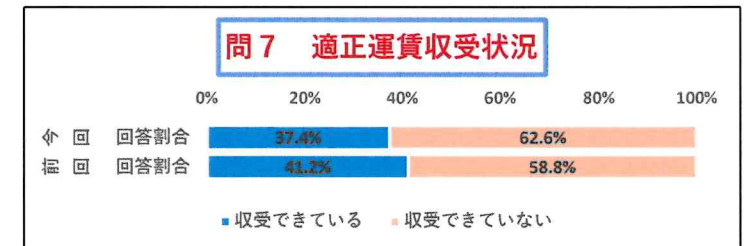
	今回		前回	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
何から取り組んでいいかわからない	12	6.7%	13	9.6%
ドライバー等の担い手確保・育成	80	44.4%	51	37.5%
海運や鉄道などのモーダルシフト	12	6.7%	9	6.6%
運行計画の見直し、効率化	73	40.6%	63	46.3%
賃金を含む労働条件・職場環境の見直し	88	48.9%	74	54.4%
荷主等との運賃交渉、荷待ち時間等削減交渉	107	59.4%	69	50.7%
その他	2	1.1%	1	0.7%
特に予定無し	21	11.7%	17	12.5%
有効回答数	180		136	



- ◎ 2024年問題の対応については、「ドライバー等の確保・育成」や「荷主等の運賃・荷待ち時間の削減交渉」の割合が高まっており、喫緊の課題認識となっている。

(7) 適正な運賃の收受状況について

	今回		前回	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
收受できている	65	37.4%	56	41.2%
收受できていない	109	62.6%	80	58.8%
有効回答数	174		136	

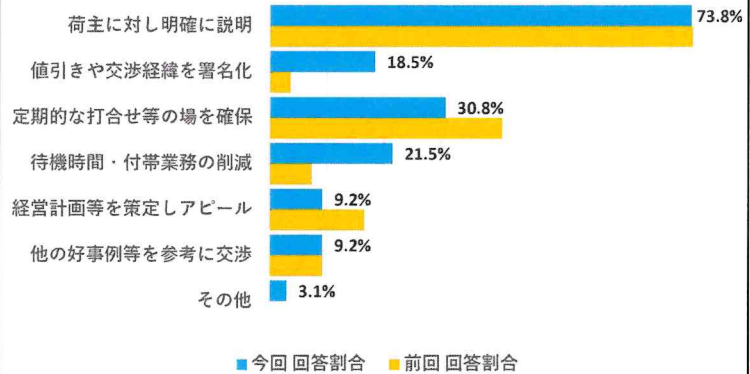


- ◎ 適正運賃の收受状況の割合は前回と大きな変化はない。

(7-2) 收受できた工夫《複数回答可》

	今回		前回	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
荷主に対し明確に説明	48	73.8%	40	74.1%
値引きや交渉経緯を署名化	12	18.5%	2	3.7%
定期的な打合せ等の場を確保	20	30.8%	22	40.7%
待機時間・付帯業務の削減	14	21.5%	4	7.4%
経営計画等を策定しアピール	6	9.2%	9	16.7%
他の好事例等を参考に交渉	6	9.2%	5	9.3%
その他	2	3.1%	0	0.0%
有効回答数	65		54	

問7-2 収受できた工夫

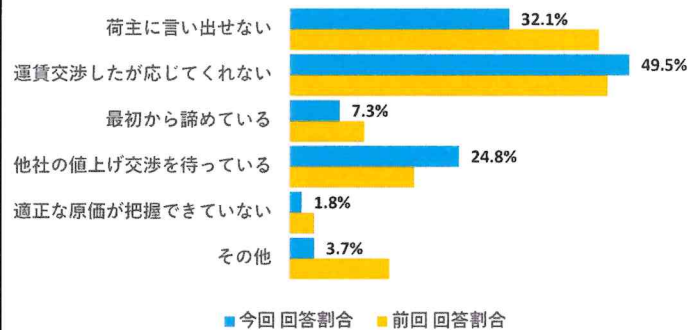


◎ 収受できた工夫としては、交渉経緯等の書面化とともに、運賃値上げよりも「待機時間・付帯業務の削減」に伴う物流の効率化により、結果的にコスト削減につながっていると推測される。

(7-3) 収受できない事情<複数回答可>

	今回		前回	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
荷主に言い出せない	35	32.1%	37	45.1%
運賃交渉したが応じてくれない	54	49.5%	38	46.3%
最初から諦めている	8	7.3%	9	11.0%
他社の値上げ交渉を待っている	27	24.8%	15	18.3%
適正な原価が把握できていない	2	1.8%	3	3.7%
その他	4	3.7%	12	14.6%
有効回答数	109		82	

問7-3 収受できない事情



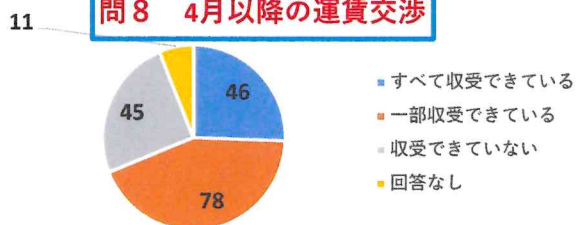
◎ 収受できない事情としては、「荷主に言い出せない」は15%程度減っているものの、「荷主が交渉に応じてくれない」が約5割を占めている。

◎ 2024年問題を理解する荷主は増加しているものの、価格転嫁までは至っていないことから荷主側も経営的に厳しい状況が伺える。

(8) 2024年4月以降の荷主との運賃交渉について

	今回		前回	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
運賃交渉した	46	26.6%		
現在交渉中	69	39.9%		
交渉していない	58	33.5%		
有効回答数	173			

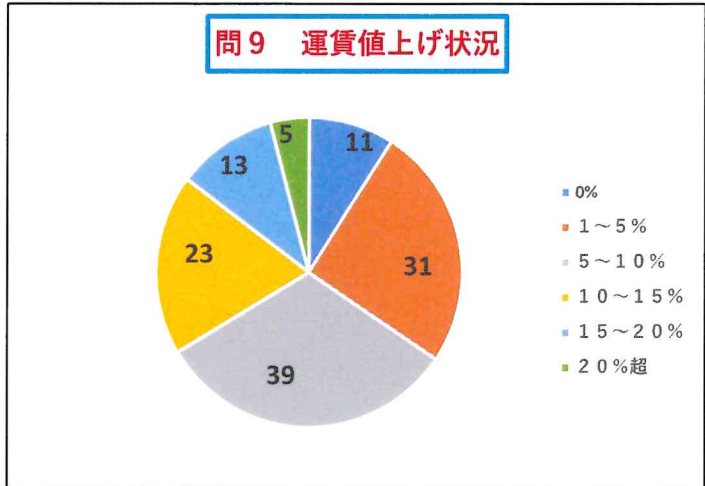
問8 4月以降の運賃交渉



◎ 2024年問題がスタートする4月以降の運賃交渉について、回答事業所の3分の1が未交渉となっており、運送事業者側の更なる運賃交渉の取組強化が求められる。

(9) 運賃値上げ状況について（交渉した、交渉中回答者）

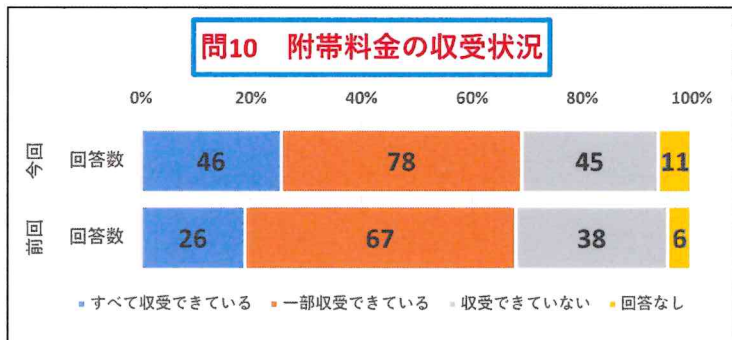
	今回		前回	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
0%	11	9.0%		
1～5%	31	25.4%		
5～10%	39	32.0%		
10～15%	23	18.9%		
15～20%	13	10.7%		
20%超	5	4.1%		
値下げされた	0	0.0%		
有効回答数	122			



- ◎ 「交渉した・交渉中」の事業所は値上げ率の差はあるものの、しっかり交渉の成果が出ている状況。
- ◎ また、約3分の1は10%以上の値上げを獲得しており、今後はこうした事業所の交渉術・内容を把握し、未交渉や満足する値上げ結果を得られていない事業所への周知・指導等も必要である。

(10) 付帯料金等の収受状況について

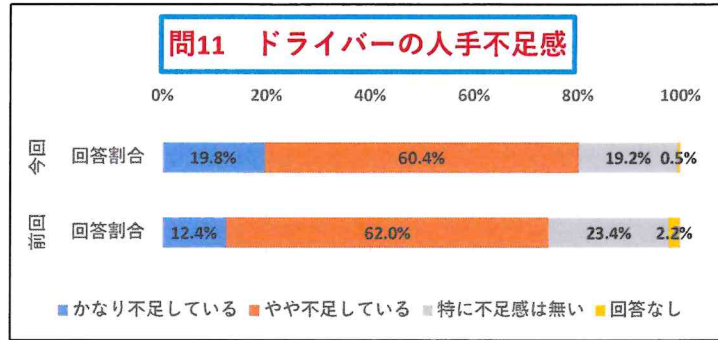
	今回		前回	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
すべて収受できている	46	25.6%	26	19.0%
一部収受できている	78	43.3%	67	48.9%
収受できていない	45	25.0%	38	27.7%
回答なし	11	6.1%	6	4.4%
有効回答数	180		137	



- ◎ 付帯料金については、「すべて収受」の件数・割合とも増加しており、「一部収受」を加えると約7割が収受できている状況。
- ◎ 内訳は、高速料金、燃料サーチャージ、フェリーBAF等であるが、待機時間等を収受している回答もあった。

(11) ドライバーの人手不足感について

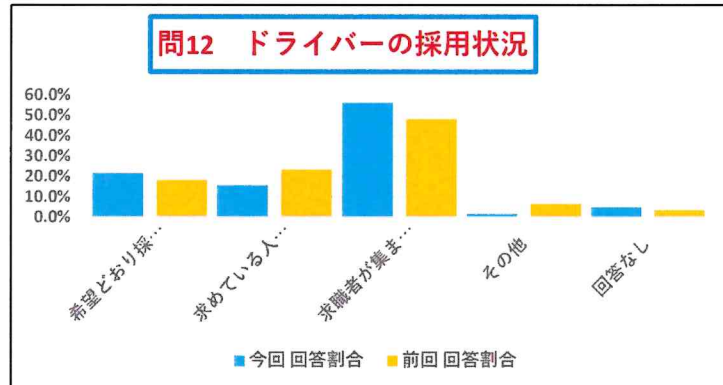
	今回		前回	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
かなり不足している	36	19.8%	17	12.4%
やや不足している	110	60.4%	85	62.0%
特に不足感はない	35	19.2%	32	23.4%
回答なし	1	0.5%	3	2.2%
有効回答数	182		137	



◎ 今回の調査で、「かなり不足している」との回答の件数・割合ともが前回より増加しており、従来の貨物量を維持していくためにはトラックドライバーの確保が最重要課題となっているが、求人・確保に苦慮している状況が伺える。

(12) ドライバーの採用状況について

	今回		前回	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
希望どおり採用が 出来ている	39	21.7%	25	18.2%
求めている人材像 とマッチしない	28	15.6%	32	23.4%
求職者が集ま らない	101	56.1%	66	48.2%
その他	3	1.7%	9	6.6%
回答なし	9	5.0%	5	3.6%
有効回答数	180		137	



◎ 希望どおり採用ができていない事業所は全体の2割強にとどまり、「求める人材とマッチしない」、「求職者が集まらない」等、採用に至らないケースが多数を占めている状況にある。